



能登やさしいこめづくり情報

育苗編

育苗日数は1か月以内！

令和5年3月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
JAおおぞら

うまい・きれいなこめづくりは健苗育成から！

良い苗とは「がっちりした太い苗」です。※「長い苗」ではありません。苗丈の長い苗（大苗）は、その見栄えとは異なり、活着や初期生育不良により最終的に収量や品質の低下を招きます。

「がっちりした太い苗」を育成するには、①育苗期間を通じた細やかなハウス内の温度管理 ②水管理 ③「育苗日数は1か月以内」の3点を徹底しましょう。

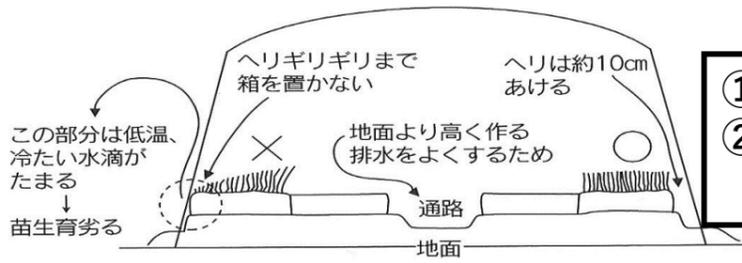
注意

1 育苗管理について

培土は種類によって床土・覆土量やかん水量が異なります。※適切な使用・管理方法についてはJAまでお問い合わせください。

①育苗初期（緑化期：3～5日間）

緑化期	温度管理 (温度計は苗の高さに設置)	水管理
 緑化期の苗姿の目標	昼間：20～25℃ ・25℃以上の高温にならないようにハウス内の換気を行う。 ※外気温が日中低くても、日射量があるとハウス内は高温になるので注意する。 ※ハウス内温度が30℃を超えるとヤケ苗が発生しやすい。 夜間：15～20℃ ・15℃を下回るときや降霜が予測される際には被覆資材で保温する。	・原則かん水はしない。(地温が冷える) ・晴天が続く場合は土の状態をよくみてかん水する。 ※かん水で過湿状態が続くと出芽遅れや病原菌の発生を助長するので注意する。



重要

- ①苗箱は置き床と隙間なく水平に並べる。
- ②ハウスのへりは温度が低くなるので、10cm程度あけておく。

②育苗中期（硬化前期：10～12日間）

硬化前期	温度管理 (温度計は苗の高さに設置)	水管理
 夕方にはハウスを閉め、夜間の温度低下に備える。	昼間：15～20℃ ・晴天時は朝から換気し、換気する場合は、風が入らないよう風下側を開ける。(夜間の低温が予想されるときは、午後早めに閉める。) 夜間：10～15℃ ・10℃を下回るときや降霜が予測される際には被覆資材で保温する。	・かん水は床土の乾き具合を見て、朝1回行う。 ・夕方のかん水は控え、必要な場合は翌朝かん水を行う(地温が冷える)。 ・雨や曇の日はかん水を控える(蒸散が少ない)。

③育苗後期（田植前：5～6日）

硬化後期	温度管理 (温度計は苗の高さに設置)	水管理
 晴天時には朝7～8時に換気とかん水を行う。	昼間：15～20℃ ・日中は必ず換気し、田植えの数日前から外気温にならす(順化)。 夜間：10～15℃ ・田植え数日前からは夜間も換気する。ただし、極端に冷え込む日は、保温に努める。	・毎朝1回、充分にかん水する。 ・風の通り道や苗箱の周辺部は乾きやすいので十分にかん水する。 ・2回目のかん水が必要な場合は、午後3時頃までにすませる。

ヤケ苗に注意！！

緑化期のハウス内温度が30℃を超えるとヤケ苗が発生しやすくなりますので、換気に努めてください。※特にシルバーポリトウでは注意してください。



↑白カビの併発
苗が弱ることで白カビの発生が助長されます。



苗の置き方のポイント

2 育苗期間の病害対策

3か月予報（2/21日発表）では、北陸地方の4月の平均気温は平年並みか高い見込みです。ハウス内温度が高くなる場合には、**細菌病の発生が心配**されます。このため、以下の対策の徹底をお願いします。

対策

- ①被覆資材を長くかけすぎない
- ②高温時には換気し、高温（30℃以上）多湿条件にしない
- ③緑化期以降は急激な温度変化や多湿条件でムレ苗が発生しやすくなるので、日中は25℃以上、夜間は5℃以下にならないように換気や保温に努める

症状	病原菌	対策等	適用薬剤
白カビ 育苗初期に高温過湿条件で発生	リゾープス菌	・換気を十分に行い、土の表面が乾き始めるまでかん水しない。	(1成分) ダコニール1000 500倍液を500ml/箱かん注 ※タフブロックを使用した場合は使用しない。
赤カビ 緑化期の異常な低温条件で発生	フザリウム菌	・低温時は保温資材をかける。	(1成分) タチガレン液剤 500倍液を500ml/箱かん注
ムレ苗 急激な温度変化や過湿条件で発生	ピシウム菌	・pH5前後の通気性のある床土を使用 ・低温時は保温資材をかける。 ・夜間冷えた次の日が晴天の場合は、早めにハウスを開ける。	(1成分) タチガレン液剤 500倍液を500ml/箱かん注後、寒冷紗等で遮光して蒸散を抑制する。

病虫害発生予報

ばか苗病：**多発**の予想
苗もち：**やや多発**の予想
→種子や育苗資材の消毒の徹底！
高温多湿に注意！

3 特殊な育苗の注意点

(1) 高密度播種育苗

播種量を増やすことで、育苗箱枚数を減らし、低コスト・省力化を図る技術です。
※「専用の播種機・専用の田植え機」を使用しないと育苗・田植えに失敗します。

(2) プール育苗

プール内で湛水して育苗することで、水管理・換気作業を省力化する技術です。
※温度管理を怠ると育苗に失敗します。

以上の技術に取り組みたい方は、JA又は、奥能登農林総合事務所までご連絡下さい。

4 荒起し、代かき

(1) 荒起し

ポイント

荒起しの深さは、15cm以上の深耕に努めましょう。

深耕は根の伸びる範囲を広げ、高温・低温などの気象変動に強い稲をつくります。荒起しを早い時期に行うと稲わらなどの分解を進め、田植え後のガスの発生を抑えることができます。

(2) 代かき

ポイント

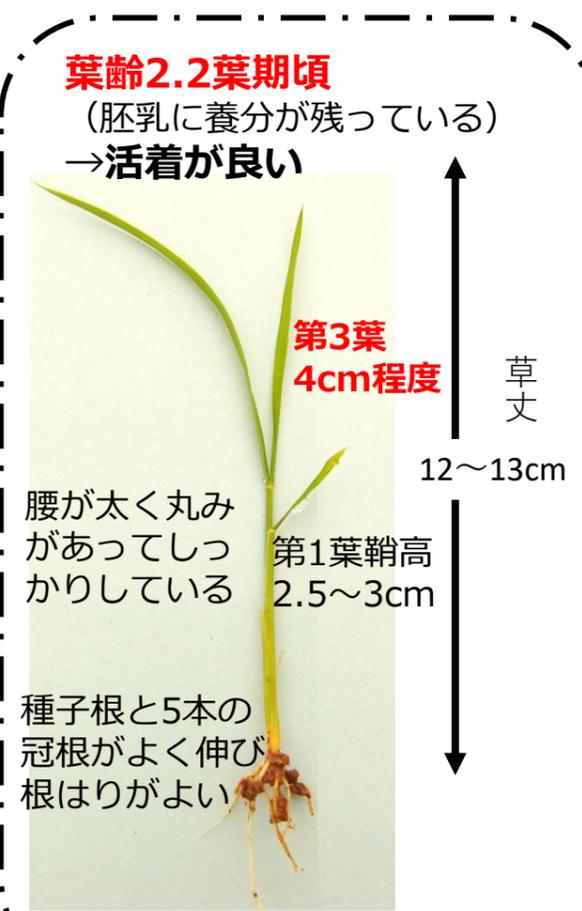
代かきは、田植え5～7日前までに行い、田面の高低差をなくし均平にしましょう。雑草の種子は、代かき後から発芽し始めます。代かきと田植えの間が長くならないようにしましょう。

代かきは浅水で行い、代かき後の「にごり水」は排出しないでください。

＜除草剤について＞

能登米で使用できる初中期一発除草剤の使用時期は、「ノビエ2.5葉期まで」と「ノビエ3.0まで」のものがありますが、除草効果を高めるために、ノビエ2.0葉期を目安に除草剤を散布しましょう。

余裕をもって、代かき日から除草剤散布日の間は14日以内を目標としましょう。



田植時の理想的な苗の姿

令和5年
春の農作業安全確認運動
(3月ポイント)の実施

「徹底しよう！」

農業機械の転落・転倒対策

例年、全国的に農作業が本格化する春以降に、農業機械の転落・転倒を中心に農作業死亡事故が急増する傾向があります。

防止対策は、①転落・転倒の危険箇所を確認し、②補強や封鎖する。この対策ができない場合は、③迂回や草刈による目印の設置。

また、死亡率を1/8に減らすことができるシートベルト装着も重要です。ヘルメット着用で頭部を保護しながら安全意識も高めましょう。

